

(薬友会報令和6年度号) 新任教授紹介 (薬物治療学研究室 教授 竹内雄一)

2024.04.01

2 薬友会報

5 薬学部：新任の先生

脳・神経系疾患の新規制御法開発と人材育成

近畿大学薬友会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度2024年4月1日付けで、医療薬学科・薬物治療学研究室の教授を拝命いたしました竹内雄一と申します。私は名古屋市立大学薬学部・薬物治療学研究室の出身で、学位は生理学研究所（総合研究大学院大学）で取得いたしました。その後、東京女子医科大学医学部、セゲド大学医学部、大阪市立大学医学部、北海道大学薬学部を経て、近畿大学薬学部に着任となりました。伝統ある近畿大学で教育・研究の機会が得られ、大変ありがたく思います。

私はこれまで主として脳・神経系疾患の制御を目的とした研究開発を行って参りました。留学先のハンガリーでは、特にてんかんやうつ病に特徴的な脳活動を標的として、新しい脳深部刺激法や経頭蓋集束電気刺激法の研究開発および臨床実装に関わりました。現在は留学中の学びを基盤に、経頭蓋集束超音波照射法など医工学技術の応用による、薬物抵抗性脳・神経系疾患の新しい制御法の創出に取り組んでいます。脳・神経系疾患の研究には、脳×疾患という複雑さの掛け算のため、ある程度の難しさが伴います。そのため実験デザインや観察・解析技術の向上に常に気を配り、現代の技術で可能な限りのソリッドなサイエンスの実践に努めています。当該サイエンスを通じて、学生の自然科学リテラシーの向上を図り、論理的思考力やコミュニケーション能力、実行力を備えた人材を育成したいと思います。社会に出ても直ぐに通用するレベルの読む・やる・書く力を、我々の研究室で身につけてもらえたら幸いです。

学部教育においては「疾患と薬物治療法」や「病理学」など、疾患自体やその治療法に関する科目を担当します。疾患の概念や標準的な薬物療法を分かりやすく説明するとともに、非薬物療法も含めた総合的な視点も伝えられたらと考えております。

一個人でできることは限られていますが、次世代を育てるという意味でもスタッフおよび学生と力を併せて頑張りたいと思います。また部局の先生方と協力して近畿大学の益々の発展に貢献したいと考えております。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



薬物治療学研究室 教授 竹内雄一